

1月13日(水曜日)「祝福の中の試練」

【新改訳 2017】

創世記 22・1-19

「……神はアブラハムを試練に会わせられた。……神は仰せられた。『あなたの子、あなたの愛しているひとり子イサクを……全焼のいけにえとして……わたしにささげなさい。』」(1、2 節)

初めて読まれる人には驚くようなことばです。神のこの命令には、実は深い意味がありました。父アブラハム自身もとまどいを覚えたことでしょうか、神はアブラハムとイサクの信仰を試し、かついっそう確かなものにしようとされたのでした。

これはテストであり、試練でありました。神はこの父と子が合格したとご覧になった時、そうなることを予知しておられ、一頭の雄羊をイサクの代わりにいけにえとされたのです。

アブラハムと子イサクは、後に人類の救済にかかわる大いなる祝福を与られていましたが、その使命を果たすためには神への献身と服従が必要であり、その試練も必要だったのです。この意義は今日も同じです。試練はのろいではなく祝福

のための訓練です。祈りつつ勝利しましょう。

～祈り～

主よ。試練に会うと、すぐつぶやいたり、不信仰になりやすい者です。どうか、神は用いられる者を訓練されることを覚えて、祈りつつそれを受けることができますように。

【学びのために】

「試練」という語は、「試み」と「練られること」の両方を意味する、すぐれた用語です。「試みられること」を耐える時、「練られた品性」が作り上げられます。試練は悪でも不幸でもありません(ローマ 5・3、4、ヤコブ 1・2-4、12 参照)。